

2 東北

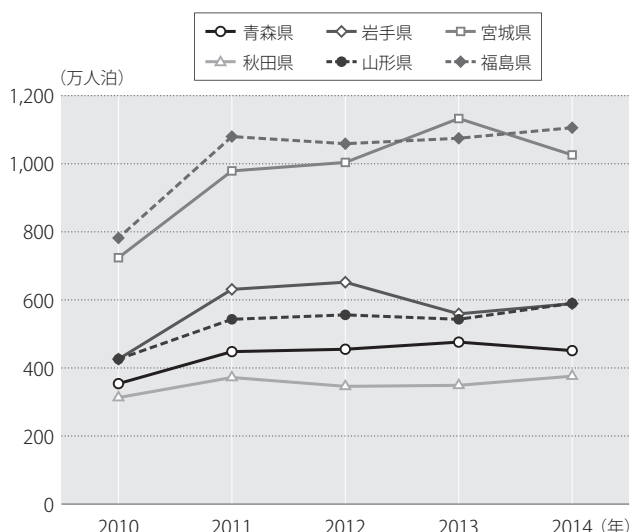
国内宿泊者数は震災後からほぼ横ばい
さまざまなジョイフルトレインの運行が始まる
夏祭りの人出は天候により明暗がくつきり

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

14年1月～12月の東北地方の延べ宿泊者数については、東北地方全体で前年比0.1%増の4,138万人となった。復興需要により宿泊者数が急増した11年(4,053万人)から、ほぼ横ばいの数字となっている(図IV-2-1)。

しかしながら県によって宿泊者数の増減に差が見られた。延べ宿泊者数が増加したのは山形県(前年比8.6%増)、秋田県(同7.7%増)、岩手県(同5.3%増)、福島県(同2.9%増)、減少したのは宮城県(同9.5%減)、青森県(同5.2%減)となっている

図IV-2-1 延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	354	448	455	476	451
岩手県	426	631	652	559	589
宮城県	724	979	1,004	1,133	1,026
秋田県	313	372	346	349	376
山形県	426	543	556	543	590
福島県	782	1,080	1,059	1,075	1,106

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：万人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

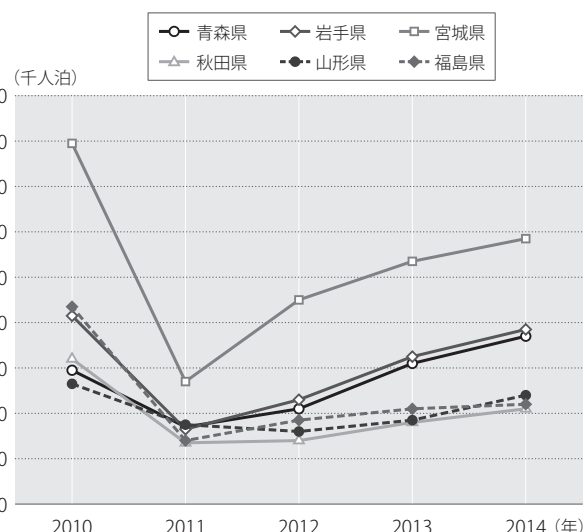
資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

る。宮城県では震災以降、復興需要により増加傾向にあったが、14年は初の減少となった。

外国人延べ宿泊者数については、震災前の水準(10年：51万人)には回復していないものの、東北地方全体で前年比14.9%増の40万2千人となった。

東北6県全てで外国人延べ宿泊者数は増加しており、山形県(前年比28.9%増)、青森県(同18.5%増)、岩手県(同18.1%増)、秋田県(同14.9%増)、宮城県(同9.9%増)、福島県(同5.3%増)の順に増加率が高い。このうち、青森県(10年比25.2%増)以外の県では震災前の水準に達していない。特に福島県(10年比49.5%減)、秋田県(10年比34.7%減)、宮城県(10年比26.5%減)では、徐々に増加しているものの、震災前の水準からは大きく離れている。福島県では、特に原発事故のマイナスイメージが大きく影響しているためか、微増にとどまっている(図IV-2-2)。

図IV-2-2 外国人延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	59	34	42	62	74
岩手県	83	33	46	65	77
宮城県	159	54	90	107	117
秋田県	64	27	28	36	42
山形県	53	35	32	37	48
福島県	87	28	37	42	44

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位：千人泊
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成26年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表IV-2-1 東北夏祭りの来場者数

祭事名	開催地	来場者数				2014年度概要
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
青森ねぶた祭	青森県青森市	266万人	282万人	285万人	259万人	祭り期間後半の悪天候が影響し、1990年の統計開始以来最も少ない人出。踊り手である「ハネト」も1999年以来最少に。
盛岡さんさ踊り	岩手県盛岡市	136万人	122万人	130万人	137万人	踊り手の参加団体数は256団体と過去最多に。
仙台七夕まつり	宮城県仙台市	203万人	200万人	206万人	204万人	最終日午後からの悪天候により、夕方からのイベントが中止に。
秋田竿燈まつり	秋田県秋田市	130万人	139万人	141万人	126万人	祭り期間後半の悪天候が影響し、昨年よりも15万人減。
山形花笠まつり	山形県山形市	91万人	100万人	90万人	63万人	悪天候により最終日の開催を中止。
福島わらじまつり	福島県福島市	23万人	25万人	24万人	25万人	参加問い合わせの増加を受け、昨年までの二部構成から三部構成に変更。

資料：各種資料をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

●東北夏祭り（青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市）の開催

東北6市における祭りの観光客数は天候により明暗が分かれた。青森ねぶた祭では、悪天候の影響で1990年の統計開始以来最も少ない人出となった。山形花笠まつりでも、悪天候により最終日の開催を中止する事態となった。

一方、盛岡さんさ踊りは好調で、昨年に引き続き、過去最多の参加団体数となっている。また福島わらじまつりでは、東北六魂祭の開催以降、参加希望者が増加しており、プログラムの構成を増やすなどの変更があった（表IV-2-1）。

●東北六魂祭（秋田市）の開催

東北六魂祭は東北各県の代表的な夏祭りが集結するイベントで、東日本大震災からの復興を願って、11年より毎年開催されている。秋田市が会場となった15年は、初の夜間パレードが開催され、秋田竿燈まつりの竿燈にも明かりがともった（表IV-2-2）。

他にも、昨年に引き続き、人気アーティストが楽曲を披露する「六魂Fes!」が開催される他、東北各地の名産品を集めた「東北うまいもの広場」が企画された。

表IV-2-2 東北六魂祭の開催概要

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
開催地	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	山形県 山形市	秋田県 秋田市
開催日程	5月26日(土) 27日(日)	6月1日(土) 2日(日)	5月24日(土) 25日(日)	5月30日(土) 31日(日)
来場者数	約24万人	約25万人	約26万人	約26万人
経済効果	20億～30億円	約37億円	約25億円	約31億円

資料：各種資料をもとに（公財）日本交通公社作成

●さまざまなジョイフルトレインが運行開始

○SL銀河

JR釜石線の花巻～釜石間では14年4月より「SL銀河」が運行を開始した。宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」の世界観をテーマにした列車で、車内では宮沢賢治の生きた大正～昭和時代をイメージしたレトロモダンな内装を楽しむ他、宮沢賢治のギャラリーや東北ゆかりの品に関する展示、小型プラネタリウムなどが設置されている。14年12月に行われた一夜限りの「ナイトクルーズ」では、ライトアップされた岩手県遠野市のめがね橋を駆け抜け、幻想的な世界を演出した。15年も引き続き、休日を中心に運行されている。

○とれいゆ つばさ

14年7月、新幹線初のリゾート列車「とれいゆ つばさ」が、山形新幹線（福島～新庄間）で運行を開始した。温泉街のように散策を楽しめる列車というコンセプトで、最大の特徴は列車内に足湯が設置されたこと。足湯は一度に8人、1人15分間楽しむことができる。他にもバーカウンターが設置されており、畳の座敷で湯上がりの一杯を楽しむことができる。15年も土日・祝日を中心に運行されている。

○フルーティアふくしま

JR磐越西線では15年4月、「フルーティアふくしま」の運行を開始した。コンセプトは「走るカフェ」で、車窓からの風景を楽しみながら、福島県産フルーツなどを使用したスイーツを楽しむことができる。5月下旬まではいちご、6月下旬まではさくらんぼと、旬のフルーツを使用している。内装は、明治・大正時代の西洋モダン風で、座席はゆったりとしたテーブル付きボックスシートとなっている。15年は土日・祝日を中心に運行している。

●三陸鉄道が全線開通・北山崎の観光船が運航再開

東日本大震災で被災していた三陸鉄道は、14年4月に北リアス線小本～田野畑間の運行を再開し、全線が復旧した。13年に放送されたNHKの連続テレビ小説『あまちゃん』による効果に加え、全線復旧で大型連休や夏休みのツアー客が増加したことなどにより、15年3月期決算が黒字と発表された。

東日本大震災で運航を休止していた岩手県田野畑村の北山崎観光船が14年7月26日、運航を再開した。再開後は「北山崎断崖クルーズ観光船」と名付けられ、観光船と船の発着施設、その最寄り駅である三陸鉄道鳥越駅も新しく完成した。北山崎観光の受入態勢については、復旧が一段落したといえる。

●山形デスティネーションキャンペーンの開催

14年6月～9月にかけて、「山形日和。」をキャッチフレーズに、食、温泉、歴史・文化、自然、人情を柱とした「山形デスティネーションキャンペーン」が開催された。これに合わせ、新幹線初のリゾート列車「とれいゆ つばさ」が運行を開始した。

広域周遊を図るため、家具メーカーやニット製造会社などを巡る「メイド・イン・ヤマガタとの出会い」や、各地の農園での収穫体験と農家レストランでの調理・食事を楽しむ「週末は山形で農園ランチ」などが実施された。また最終日には、「とれいゆ つばさ」と「SL山形日和。陸羽西線号」に沿線住民が手を振る「スマイルプロジェクト」が実施され、多くの参加者があった。

●ブルートレイン「日本海」車両がホテルに

14年8月、岩手県岩泉町の「ふれあいらんど岩泉」で、引退したブルートレイン「日本海」の車両を利用したホテルが開業した。「ふれあいらんど岩泉」は公園やキャンプ場、体験農園からなる施設で、敷地内に客車3両が設置された。A寝台車とB寝台車があり、1両貸し切りのグループ利用のみが可能となっている。

車両は、東北の復興支援を行う岩手県盛岡市のNPO法人岩手未来機構が購入し、岩泉町に寄贈したもの。車両の運搬・設置費用の一部はクラウドファンディングを通じて集めたもので、岩手未来機構の取り組みは、日本最大のクラウドファンディングサイトである「READYFOR」から「コミュニティパワー賞」を受賞している。

●東北6市が海外で観光物産フェアを合同開催

14年10月、東北の県庁所在地6市では、米国カリフォルニア州やニュージャージー州などで観光物産フェアを合同開催した。会場は、同州にあるスーパーマーケットで、仙台市にある総合商社の子会社が運営している。「RISING TOHOKU FOOD FAIR（ライジング トーホク フードフェア）」と銘打ち、物産品販売、東北6市の祭り展示などの他、カリフォルニア州のトラ

ンス店では、盛岡さんさ踊りや山形花笠踊りなどのステージイベントが行われた。

11年より開催されている東北六魂祭のネットワークを活かしたもので、6市による合同開催は初めて。震災以降落ち込んでいる外国人観光客数の回復に期待される。

●みちのく潮風トレイルが一部開通

環境省の「グリーン復興プロジェクト」事業の一つとして整備が進められている長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」の一部が開通した。「みちのく潮風トレイル」は地域の自然や文化、そこに住む人々との触れ合いを歩きながら楽しむことができる自然歩道で、13年11月に開通した青森県八戸市～岩手県久慈市間に引き続き、福島県福田～相馬間の約49kmが14年10月に、岩手県岩泉町～宮古市間の約51kmが15年7月開通した。

歩道のポイントは街中にある観光施設や商店などにも設けられており、観光客の立ち寄りによる観光振興も期待される。観光案内や沿道の清掃、トイレや休憩場所の提供などは沿道の住民や事業者によるボランティアが一役買っている。また踏破した区間数に応じて証明書と記念品がプレゼントされるスタンプラリーも行われている。

16年度中に700kmの全区間が開通する予定。

●ふくしま観光復興促進特区が認定

福島県と県内51市町村で国へ申請した「ふくしま観光復興促進特区」が15年3月に認定された。

ふくしま観光復興促進特区では、指定区域において税制の優遇や規制の特例を認めることで、観光拠点づくりを目指す。

施策の狙いについては、①伝統文化や伝統工芸品を活用した関連産業の活性化 ②花を代表する福島を自然を生かした観光ルート形成やガイドの育成 ③温泉をスポーツや大規模な会議、医療と連携させることによる新たな観光関連産業の集積 ④ゴルフ場の環境整備や受入態勢強化としている。

施策の効果については未知数だが、観光の復興に向けた足がかりとして期待される。

●教育旅行回復に向けた福島県の取り組み

東日本大震災と原発事故の影響で激減した教育旅行の回復を図ろうと、福島県ではさまざまな取り組みが行われている。

15年4月より、宿泊を伴う教育旅行で福島県を訪れる小・中学校と高校に対し、往復のバス費用を半額補助する制度が始まった。期間は15年度末までで、予算額に到達し次第募集を終了する。すでに公益財団法人福島県観光物産交流協会では、中学、高校、大学の部活動やサークルを対象に、福島県で合宿を行った場合に最大30万円を補助する制度を実施している。14年度は予算額に達する応募があった。

また、教育旅行の中身を充実させる取り組みとして、「ふくしま教育旅行出前講座」が企画されている。出前講座では、児童や生徒が福島県を訪れる前に、福島県の現地スタッフが学校を訪れ、事前学習を行うもので、教育効果の向上を図っている。

●弘前公園で外国人観光客向けの花見サービス開始

桜の名所である青森県の弘前公園で行われている花見代行サービス「手ぶらで観桜会」が、外国人向けのサービスを開始した。同サービスは弘前市のWebコンサルティング会社、株式会社コンシスが提供するサービスで、さくらまつり期間に花見の場所取り、郷土料理やねぶた囃子の演奏による宴会の準備・片付けを代行する。以前から実施されているサービスだが、15年度からは英語版のウェブサイトを開設し、外国人観光客の募集を開始した。外国人観光客からは、特に忍者が弁当を運ぶなどの演出が好評となっている。

●蔵王山に火口周辺警報

15年4月13日、気象庁から宮城・山形県境の蔵王山に火口周辺警報が出された。

蔵王山の観光スポットでもある「御釜」周辺から1.2kmの範囲で警戒が必要とされたため、周辺市町村は立ち入りの規制を行った。

これに伴い、蔵王温泉など、周辺のホテルや温泉旅館ではキャンセルが相次いだ。通常であれば宿泊施設が満室になるゴールデンウィーク期間中も客足は戻らず、観光業を中心に深刻な打撃を受けた。15年5月には1件のホテルが廃業している。

また周辺自治体では、情報発信や広告宣伝による風評被害の払拭、プレミアム付き旅行券の発行や、有料道路「蔵王ハイライン」の無料化による誘客強化の取り組みが行われている。

15年6月16日には警報が解除され、以降、個人客は回復傾向にあるものの、団体客の客足は遠のいたままとっている。

●ふくしまデスティネーションキャンペーンの開催

15年4月～6月にかけて、「福が満開、福のしま。」をキャッチフレーズに、花、食、温泉、復興をメインテーマとして「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が開催された。

これに合わせ、「フルーティアふくしま」の他、車内でサンバが披露された福島交通飯坂線の「飯電deサンバ!」「SL 福が満開ふくしま号」などといったSLの運行が行われた。

特別企画としては、県内218カ所の花の名所を巡る「花の王国ふくしまキタンフラワースタンプラリー」や、宝の地図を手掛かりに、県内各所に眠る宝を探す「リアル宝探しイベント in 福島『コードF-5』～福島に咲く神の花伝説～」、いわき市にある国宝「白水阿弥陀堂」のライトアップなどが行われた。

(川村竜之介)